



日本一のだるまづくりと豊かな文化、 首都圏と上信越をむすぶ交通拠点都市

高崎市は、37万5千人の人口を擁する群馬県最大の都市です。関東平野の北端に位置し、古くから交通の要衝として栄え、今も首都圏と上信越を結ぶ重要な拠点都市です。また、日本初の地方オーケストラが誕生したことで知られ、音楽祭や映画祭などの文化活動も盛んに行われ、駅周辺にはアリーナや文化芸術センター、コンベンション施設を建設する大規模プロジェクトも進んでいます。



取材・写真協力：高崎市観光協会

① 高崎だるま

200年ほど前から高崎市周辺でつくられてきた、「鶴」の眉毛、「亀」の口ヒゲに特徴がある別名「福だるま」。年間90万個を出荷し、毎年1月6・7日開催の「七草大祭だるま市」は、数十万の人出で賑わいます。



② 少林山達磨寺

1697(元禄10)年開創の少林山達磨寺。縁起物として配っていた達磨大師の絵札から、後に高崎だるまが誕生。古今のだるまを展示した達磨堂、建築家ブルーノ・タウトが居住した洗心亭があります。



③ 白衣大観音

1936(昭和11)年に建立された高さ41.8mのコンクリート造りの大観音像。9階建ての胎内は拝観でき、最上階からは市街や連山を一望。色鮮やかなツツジなど、四季折々の花木も楽しめます。



④ 榛名神社

第31代用明天皇(在位585~587)の時代に創建。修験者の霊場、雨乞い神社としても知られ、境内には本殿などの国の重要文化財指定の建造物や、奇岩怪石が点在。門前の街並みにも趣が漂います。



⑤ みさと芝桜公園

4月上旬から5月上旬にかけて開かれる「みさと芝桜まつり」は、2.9haの敷地に26万株の芝桜が花開き、芝桜の丘を中心に「織姫が置き忘れた桜色の羽衣」をイメージした美しい模様が見られます。